

令和6年度 八幡浜市立江戸岡小学校評価報告書(後期) R7年1月集計

【 評 価 者 】 保護者アンケート 児童94名分 教職員自己評価 11名 児童アンケート108名回答(全校児童113名)

【 アンケート評価 】 4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない 無:わからない、無回答

【 評 価 基 準 】 A:十分に達成されている(肯定率90%以上かつアンケート評価4評価35%以上を目安) B:相当程度達成されている(肯定率75%以上)

C:やや不十分である(肯定率60%以上)

D:不十分である(肯定率60%未満)

※ 肯定率:アンケート4・3を選んだ割合

項目	小項目	評価指標	評価	評価資料	アンケート結果					肯定率 (%)	評価4 (%)	学校による考察(○)・改善方策(◇)
					4	3	2	1	無			
I 教育目標・児童	教育目標の具現化	学校の教育目標『「よく学び よく遊べ」豊かな知性・健やかな体・利他の心を育てる』を理解し、その実現に努めている。	前	A 教職員自己評価1	5	5	0	0		100	50	○全ての教職員が、教育目標の具現化を意識して教育活動を推進することができており、高い評価につながっている。 ◇今後も、教育目標や目指す児童像を共通認識し、全ての教育活動を通して児童の健全育成に努める。
			後	B 教職員自己評価1	3	8	0	0		100	27	○教育目標や目指す児童像を共通認識した上で、全ての教育活動に取り組むことができた。 ◇今年度の成果を基に1年間の教育活動を振り返り、来年度の実践に生かしていく。
	学校生活	児童:学校は楽しい。 保護者:学校が楽しいと言っている。	前	A 児童アンケート1	67	40	5	0		96	60	○多くの児童が充実した学校生活を送っており、児童、保護者のアンケート結果ともに、昨年度よりも良い評価となっている。 ◇一部に学校生活に満足できていない児童の様子が見られるため、個々の課題や悩みの解決に努める。
			後	A 児童アンケート1	60	44	4	0		96	56	○児童・保護者ともに、前期と比較して大きな変化はなかったが、学校があまり楽しくないと回答している児童が一定数いる。 ◇全ての児童が不安なく進学や進級に向かえるよう、引き続き教育相談等を充実し児童理解を深める。
II 努力事項	1 学習指導	基礎・基本の定着を図り、分かる授業・楽しい授業づくりに努めている。 保護者:授業が楽しく分かりやすいと言っている 児童:授業が分かりやすい。	前	A 教職員自己評価2	5	5	0	0		100	50	○児童の学習の成果や課題を分析し、児童の実態に応じた授業改善に努めることができています。 ◇児童の学習への取組や学習内容の定着度を把握し、つまずきのある児童への支援や個別指導を充実させる。
			後	B 教職員自己評価2	3	8	0	0		100	27	○評価1と2の割合が若干増えている。学習内容が進むにつれて、理解につまずきのある児童が増えていることが考えられる。 ◇個々の児童の学習状況を把握して、分かる授業の実践に努める。同時に、つまずきのある児童への支援、特に個別指導を充実させる。
			前	B 保護者アンケート2	26	51	13	3	1	83	28	
			後	B 保護者アンケート2	33	45	18	3	1	79	33	
		前	A 児童アンケート2	62	45	5	0		96	55		
		後	A 児童アンケート2	51	51	3	3		94	47		
		前	A 教職員自己評価3	5	5	0	0		100	50	○少人数指導の充実やICT機器の効果的な活用を図ることで、児童一人一人に目を向けた指導に努めることができています。 ◇教職員が一人一人の児童に関わる時間を十分に確保するための授業改善に努める。	
		後	A 教職員自己評価3	7	4	0	0		100	64	○少人数指導の充実やICT機器の効果的な活用に継続して取り組むことができた。 ◇補充学習を定期的実施することで、児童一人一人の理解を促進する。	
	家庭学習の習慣が身に付いている。 (低15~30分 中30~60分 高60~90分)	前	B 教職員自己評価16	0	9	1	0		90	0	○肯定率は高いが、児童によって個人差がある。保護者の評価からも十分でないと感じている様子が見られる。 ◇家庭との連絡や生活学習ががんばりカードの活用で児童の様子を把握し、課題の見られる児童への声掛けや支援に努める。	
		後	B 教職員自己評価16	0	10	1	0		91	0	○前期と比較して児童と保護者の肯定率がやや低くなっており、家庭学習への取組が不十分な児童の様子が見られる。 ◇個別懇談や生活学習ががんばりカードから得られた情報を生かし、課題の見られる児童への声掛けや支援を継続する。	
		前	C 保護者アンケート3	27	43	18	6	0	74	29		
		後	C 保護者アンケート3	35	34	24	6	1	70	35		
	主体的・対話的で深い学びの充実に努め、自ら学び自ら考える力の育成に努める。	前	B 教職員自己評価4	1	7	2	0		80	10	○自分の考えを適切にまとめる力に課題があり、自分の考えを進んで表現することを苦手としている児童が多い。 ◇ペアやグループでの学習を積極的に取り入れ、一人一人に活躍の場がある主体的で対話的な授業づくりを推進する。	
		後	B 教職員自己評価4	0	11	0	0		100	0	○校内研修を充実させ、全教職員で授業改善に努めることができた。 ◇話し合い活動や読書活動を推進する取組を進め、自分の考えを深める活動を進める。	
	2 現職教育	資質・能力の向上を目指したOJT研修の推進と専門的、実践的研修の充実に努める。	前	B 教職員自己評価5	3	6	1	0		90	30	○計画的に校内研修を進め、教職員一人一人の資質・能力の向上に努めることができています。 ◇校内研修等で教職員同士が学び合う場を設け、経験や知識を積極的に共有していく。
			後	B 教職員自己評価5	1	10	0	0		100	9	○肯定率は100%だが、評価4は9%だった。研修のさらなる充実に努めようとする、教職員の意識の表れと捉えている。 ◇一年間の研修成果を評価した上で、次年度の研修がさらに充実するよう計画立案を進める。
3 道徳教育	道徳科の充実に努め、よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成に努める。	前	A 教職員自己評価6	4	6	0	0		100	40	○道徳科の授業の充実に努め、他の教育活動の中でも道徳性の育成を重視した活動を実践することができています。 ◇体験的な活動を重視し、道徳性の育成や道徳実践力の向上をねらいとした取組を進める。	
		後	B 教職員自己評価6	2	9	0	0		100	18	○肯定率は100%だが、評価4は18%だった。道徳教育のさらなる充実に努めようとする、教職員の意識の表れと捉えている。 ◇今年度の実践を基に指導内容の評価や年間計画の見直しを行い、児童の実態に即した、より充実した取組を目指す。	
4 特別活動	異年齢集団活動を生かした、温かい人間関係や連帯感を養う。	前	B 教職員自己評価7	2	8	0	0		100	20	○上学年児童が下学年児童に温かく接する様子が様々な場面で見られ、支持的風土が醸成されている。 ◇支持的風土を生かして異年齢集団で構成するなかよし班活動を充実させ、全校体制での取組を積極的に進めていく。	
		後	B 教職員自己評価7	2	9	0	0		100	18	○なかよし班活動を教育活動の中に計画的に取り入れ、異年齢集団での温かい人間関係や連帯感の涵養に努めた。 ◇児童が中心となった児童会活動を進めることで、異年齢集団活動の機会を充実させる。	
5 生徒指導	情報交換を密にし、全教職員の共通理解を図り、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努める。	前	A 教職員自己評価8	7	3	0	0		100	70	○職員朝礼、職員会議、校内研修等で児童理解や情報交換の時間を確保し、共通理解を図っての指導を実践することができた。 ◇今後も、全教職員で児童を見守り育てる意識を持ち、情報交換の時間を確保して一体となった指導を継続する。	
		後	A 教職員自己評価8	10	1	0	0		100	91	○情報交換を密にすることで児童理解を図り、課題に対してすぐに対応することができた。 ◇引き続き情報交換の機会を十分に確保し、いじめ・不登校の未然防止や早期発見、早期対応に努める。	
	児童はきまりやルールを守ることができる。	前	C 教職員自己評価19	0	7	3	0		70	0	○校内・校外を問わず、きまりやルールが守れない事例がいくつかあったため、評価が低くなっていると考えられる。 ◇きまりやルールの確認をしっかり行うとともに、地域や公的な場所でのマナーについても様々な機会を通して指導していく。	
		後	B 教職員自己評価19	1	8	2	0		82	9	○児童の規範意識を高められるよう、課題となる事例に対して適切な指導を行った。 ◇学校外での児童の様子を把握に努めるとともに、学校全般生活を通じて規範意識を高める指導をする。	

Ⅱ 努 力 事 項	5 生徒指導	児童は気持ちのよいあいさつができる。	前	D 教職員自己評価17	0	5	5	0	50	0	○教職員や保護者の評価が低い。児童の評価も含め、あいさつに関して課題を感じている様子がうかがえる。 ◇今年度は、重点目標の中でも、特にあいさつの励行に取り組んでいる。各家庭にも呼びかけて、根気強く指導を継続していく。		
				D 保護者アンケート4	20	34	31	8	1	58		22	
				B 児童アンケート4	52	43	15	2	85	46			
		後	B 教職員自己評価17	0	9	2	0	82	0	○保護者と教職員の評価がやや向上した。少しずつではあるが、児童のあいさつが良くなっている。 ◇保護者や地域の協力を得ながら、あいさつを励行していく。			
			C 保護者アンケート4	20	42	28	8	2	63			20	
			B 児童アンケート4	46	43	17	2	82	43				
	6 人権・同和教育	児童は正しい言葉遣いができる。	前	B 教職員自己評価18	0	8	2	0	80	0	○言葉遣いに課題があると感じている保護者が多い。児童や教職員の回答にも、一定数「あてはまらない」の評価が見られる。 ◇場に応じた言葉遣いや相手の気持ちを考えた言葉遣いについての指導を充実させる。地域や家庭とも連携して適切に指導していく。		
				D 保護者アンケート5	2	50	34	7	1	56		2	
				B 児童アンケート5	37	62	13	0	88	33			
		後	C 教職員自己評価18	0	8	3	0	73	0	○保護者の肯定率が50%を割っており、前期同様に言葉遣いに関しては課題が残る。 ◇相手の気持ちを考えた思いやりのある言葉が増えるよう、それぞれの場面で指導や意識付けを図る。			
			D 保護者アンケート5	10	37	44	9	0	47			10	
			B 児童アンケート5	33	59	15	1	85	31				
	7 特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実に努めるとともに、相談体制の充実に努める。	前	A 教職員自己評価9	4	6	0	0	100	40	○現在、いじめは認知していない。児童の人間関係の問題に対しては、全ての教職員で情報を共有して指導や支援に当たっている。 ◇大きな問題は起こっていないが、今後も児童の人間関係に十分な注意を払い、いじめや差別の早期発見・早期解決に努める。		
				B 保護者アンケート9	31	48	10	5	0	84		33	
				A 児童アンケート6	61	48	3	0	97	54			
		後	B 教職員自己評価9	3	8	0	0	100	27	○2学期に1件のいじめを認知し、指導と経過観察をして改善している。保護者の協力があり、早期発見・早期対応に努めることができた。 ◇人権・同和教育のより一層の充実を図り、学校の様々な教育活動の中でより良い集団作りに努める。			
			B 保護者アンケート9	32	46	17	3	2	80			33	
			A 児童アンケート6	53	51	3	1	96	49				
	8 健康、安全教育	子どもは早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	前	A 教職員自己評価10	6	4	0	0	100	60	○校内支援委員会を組織して児童理解に努め、学校生活支援員や関係諸機関と連携して児童の支援に当たっている。 ◇特別支援教育コーディネーターを窓口として、児童や保護者の相談や要望に適切に対応していく。		
				A 教職員自己評価10	6	5	0	0	100	55			
			後	C 保護者アンケート7	36	32	21	4	1	73		39	
		子どもはネット依存にならないよう、ルールを守ってゲームやインターネットを使用している。	後	C 保護者アンケート7	37	31	20	11	1	69		37	○多くの家庭が就寝時刻を決め実践できている様子だが、早く寝る習慣が十分に身につけていない児童の割合も高い。 ◇学習・生活ががんばり表等を活用して、児童一人一人の実態を把握し、家庭と連携した指導に努める。
			前	C 保護者アンケート8	21	36	27	7	3	63		23	
			後	D 保護者アンケート8	22	29	30	16	3	53		23	
9 保・幼・中、家庭・地域社会との連携	ブロックやPTA、地区公民館、「おやじの会」等との連携を図り、開かれた学校づくりに努める。	前	A 教職員自己評価12	5	5	0	0	100	50	○各関係団体との協力体制が構築されており、連携を図りながら、効果的で充実した取組を行うことができています。 ◇連携の在り方について、学校再編等に対応するための準備を各関係団体と協力して進めていく。			
			A 教職員自己評価12	4	7	0	0	100	36				
		後	B 保護者アンケート13	42	40	10	2	0	87		45		
	学校は子どものことについて気軽に相談できる。	後	B 保護者アンケート13	37	50	9	3	1	88		37	○各教職員が保護者からの連絡相談に真摯に対応するよう努めており、昨年度よりも肯定率が向上している。 ◇相談のしにくさを感じている保護者もいるため、対話の機会が十分に確保できるよう努める。	
		前	A 保護者アンケート10	59	33	2	0	0	98		63		
		後	A 保護者アンケート10	50	41	8	1	0	91		50		
10 人的管理	風通しのよい人間関係の構築と健康管理の推進に努め、切磋琢磨できるめりはりのある職場づくりに努める。	前	A 教職員自己評価13	5	5	0	0	100	50	○各関係団体との協力体制が構築されており、連携を図りながら、効果的で充実した取組を行うことができています。 ◇連携の在り方について、学校再編等に対応するための準備を各関係団体と協力して進めていく。			
			A 教職員自己評価13	10	1	0	0	100	91				
		後	A 教職員自己評価13	10	1	0	0	100	91				
	学校は手段や機会を捉え、学校の様子を知らせている。	後	A 保護者アンケート10	59	33	2	0	0	98		63	○環境整備に努めているが、予算の制限もあり対応が行き届いていない点もある。 ◇市教育委員会や関係団体と連携し、優先順位を付けて計画的に整備や修繕を行っていく。	
		前	A 教職員自己評価14	5	5	0	0	100	50				
		後	B 保護者アンケート12	47	36	7	3	1	89		51		
11 物的管理	豊かな心を育む、潤いのある教育環境づくりに努める。 保護者：学校の施設・設備はよく整備されている。	前	A 教職員自己評価14	4	7	0	0	100	36	○前期に比べ、保護者の肯定率がやや低くなっている。修繕の行き届いていない施設・設備(プール等)が残っているためと考えられる。 ◇予算に応じて可能な範囲で修繕を進め、必要なものは市に要望していく。			
			B 保護者アンケート12	37	44	16	2	1	82		37		
		後	B 保護者アンケート12	37	44	16	2	1	82		37		
	子どもの安全指導や事故防止に努めている。	前	A 教職員自己評価11	8	2	0	0	100	80		○防災・危機管理マニュアル等の見直しや定期的な訓練、安全点検を実施し、安心・安全な学校作りに努めている。 ◇日常に潜む危険を見逃すことのないよう、地域や保護者の協力を得て、様々な視点で安全確保に努める。		
			B 保護者アンケート11	43	40	6	4	1	89			46	
		後	A 教職員自己評価11	10	1	0	0	100	91				
12 事務管理	適正かつ効率的な事務処理・文書管理に努め、情報等の適切な処理・管理に努める。	前	A 教職員自己評価15	4	6	0	0	100	40	○事務処理や文書管理に関する課題に対して、教職員間で話し合いながら改善することができた。 ◇適切なチェック体制を維持し、常に複数人で確認し合いながら、漏れのない文書処理・情報処理に努める。			
		後	A 教職員自己評価15	7	4	0	0	100	64				